



一隅を照らす運動総本部だより
No. 39



一隅を照らす運動ホームページアドレス
<http://ichigu.net>

半田孝淳天台座主猥下ご遷化

平成二十七年十二月十四日、第二五六世天台座主大僧正半田孝淳猥下が世寿九十九歳にてご遷化された。平成十九年二月一日より天台座主職を務められ、一隅を照らす運動総裁も務められていた。

なお、密葬は平成二十七年十二月十七日、小堀光實延暦寺執行を喪主に滋賀院門跡にて、本葬は平成二十八年一月二十九日、木ノ下寂俊天台宗務総長を喪主に天台宗務庁において天台宗葬として執り行われた。謹んでご報告申し上げます。

第三十回 全国一斉托鉢

平成二十七年十二月一日、第三十回全国一斉托鉢が開始された。十二月の「地球救援募金強化月間」中は各教区本部を中心に戸別托鉢や街頭托鉢が展開され、師走の恒例行事となっている。今回も多くの方々の協力により平成二十八年一月二十五日現在で五十五会場の実施報告があった。

全国での募金総額は七百六十四万四千七百五十八円で、これらの浄財から



地域社会福祉向上のために地元の社会福祉協議会やNHKの歳末たすけあい運動などに届けられたほか、一隅を照らす運動総本部「地球救援事務局」に四百九万九千五百八十円が寄託された。

各地の様

延暦寺一山

平成二十七年十二月一日、比叡山麓の大津市坂本地区一帯で行われ、今回で三十回目を迎えた全国一斉托鉢には、延暦寺一山住職や職員、天台宗務庁の役員、総勢約百人が参加した。

午前九時より、法螺貝の音を合図に生源寺を出発した一行は雨の降る中、天台座主半田孝淳猥下を先頭に「造り道」を托鉢行脚。その後、六班に分かれて坂本界隈の戸別托鉢を行い、多くの浄財が寄せられた。また、天台宗務庁の役員と延暦寺一山寺庭婦人が、JR比叡山坂本駅、JR堅田駅、JR大津京駅と京阪坂本駅にて街頭募金を実施した。

なお、当日寄せられた浄財はNHK歳末たすけあい運動とNHK海外たすけあい運動に寄託された。

滋賀教区本部

十二月十四日、総勢三十九名が甲北部十王寺・西教寺にて六班に分かれ実施。天候にも恵まれ、檀信徒のご協力を得てスムーズに托鉢ができた。地球救援事務局に十万円を寄託。

京都教区本部

十二月五日、総勢三十名が京都市中京区四条河原町高島屋、マルイ前にて街頭托鉢を実施。天候にも恵まれ多数の往来の中での托鉢となったが実際足を止めて募金していただける方はそれほど多くなく、東日本大震災から四年余りが経ち人々の互助意識が少なからず低下している印象を受けた。また、外国人観光客が増加する中、勧募を促す英語、中国語等表記の旗や募金箱の必要性を感じた。京都新聞歳末ふれあい募金に二十万一千二百二十八円、地球救援事務局に二十万一千二百二十八円を寄託。

近畿教区本部

十二月四日、大阪心齋橋筋戎橋付近にて総勢十一名で街頭托鉢を実施。当日は寒風吹き荒ぶ天候でしたが、通行人も多く「一隅を照らす運動」につい



十九円、地球救援事務局へ六万一千九百十九円を寄託。

兵庫教区本部

第一部では十二月一日、日輪寺周辺にて総勢二十四名で二班に分かれ、同寺檀信徒地区周辺にて托鉢行脚を実施。出発前に日輪寺保育園児代表4名より「皆さん宜しくお願ひします」の掛け声と浄財をいただきました。今か今かとお待ちいただいていた檀信徒様からも心のこもった浄財を頂戴し、改めて慈悲の心を感じました。地球救援事務局に七万五千三百二元を寄託。

第二部では十二月五日、妙楽寺、金剛寺檀中を総勢四十三名が六班に分

て説明するグループと読経をしながら喜捨を受けられるグループに分かれ托鉢を行った。パン・メツ・ニヤ・メツタ協会へ六万一千九百

かれ戸別托鉢。晴天に恵まれ少し歩くと汗ばむような陽気となりました。



総代理のご案内で迷うことなく回る事ができました。各家庭では温かく出迎えて下さり、予定どおり無事に托鉢を実施することができました。篠山市社会福祉協議会に十四万一千円と洗剤七十一個と砂糖四十六kg、加東市社会福祉協議会に三万円と洗剤二十個と砂糖二十kg、三田市善意銀行に三万円と洗剤二十個と砂糖二十kg、地球救援事務局に七万七千七百十四円をそれぞれ寄託。

第三部では十二月一日、総勢六十四名が参加し、應聖寺檀信徒地域、西治観音寺檀信徒地域を中心に戸別托鉢を実施。2ヶ寺においてそれぞれ結団式を行い担当寺院住職より割り当て地区、班別等の説明を行い、各地区に分かれた。各家では、玄関を開け

住職を迎え、読経、般若心経を一緒にお唱えされる方もおられた。福崎町社会福祉協議会に十四万三千八百円、地球救済事務局に十四万三千七百円を寄託。

・第四部では十二月一日、総勢十一名が姫路駅前から姫路城前までの間、托鉢行脚を実施。



この日は、少し風が強く吹いていましたが比較的暖かい日でした。素通りされる方もありましたが、天台宗と分かって募金をして下さる方もあり嬉しく思いました。地球救済事務局に七万二千八百円を寄託。

・第五部では十二月六日、観音寺周辺にて総勢十四名で戸別托鉢を実施。観音寺ご住職が托鉢の意義、目的等を事前に説いていただいております。檀家や地域の方も積極的に協力いた

けた。日頃、ご住職や寺院の方が地域の方々との密着した活動がされている賜物だと感じました。地球



救済事務局に七万五百円を寄託。

・第六部では十一月二十八日、総勢四十六名が五班に分かれて丹波市春日町下三井庄及び中山の一部（正福寺、照伸寺檀中周辺）にて、住職と檀徒総代が旗を掲げて戸別に托鉢を実施。部内寺院を毎年順番に実施してすでに四巡目に入っているため、恒例行事として定着している。訪問の先々で、労いの言葉をかけてもらい清々しい気持ちにさせていただいた。丹波市社会福祉協議会に四万六千五百円と地球救済事務局に四万四千五百円を寄託。

・第五部正福寺支部では、十二月一日、新温泉町湯・歌長・細田周辺にて住職と檀信徒など総勢十二名で戸別托

鉢を実施。法螺の音を先頭に、檀信徒の行列が町を練り歩く。毎年恒例行事とはいえ、我がことの如く実



施していただく檀信徒には頭が下がる。開始時の雨も途中で止みいつもの托鉢よりは少し暖かかった。心のもった多額の浄財を託された責任を大きく感じる托鉢であった。地球救済事務局と町社協には、しっかりと活かしてもらいたいと切に思う。新温泉町社協に八万円、地球救済事務局に十万八千五百円を寄託。

岡山教区本部

・第一部では十一月十六日、無量院での部会にて住職十四名から浄財を募った。地球救済事務局に二万四千円を寄託。

・第二部では托鉢行脚は実施していない。山陽新聞社会事業団に九万七百

六十三円、地球救済事務局に八万五千円を寄託。

・ 第四部では十一月二十七日、倉敷市玉島市街にて総勢四十九名が六グループに分かれて戸別托鉢を実施。浄財獲得が目的ではなく、参加者各人の修行として托鉢を楽しむという趣旨を踏まえることができた托鉢であった。玉島社会福祉協議会に五万円、地球救済事務局に十二万七千七百五十四円を寄託。

山陰教区本部

・ 第一部では十二月一日、住職や檀家など総勢三十名が参加し、三班に分かれ三朝温泉街などで托鉢を実施。旅館や商店、民家など約三百五十軒を戸別托鉢し無病息災、商売繁盛を祈った。三朝町社会福祉協議会に八万八千円、地球救済事務局に八万円を寄託。

・ 第三部と第四部は合同で十二月一日、松江駅前にて総勢七名が街



頭托鉢を実施。浄財を喜捨下さる皆様の言葉に温かさを感じた托鉢であった。愛のともしび募金に三万三千八百九十八円、地球救済事務局に二万五千円を寄託。

四国教区本部



十二月一日、総勢二十八名が参加し、ことんでん瓦町駅からトキワ街、南新町、丸亀町、片厚町、兵庫町の各商店街にて街頭托鉢を実施。

暖かな冬の一日となり、参加者が協力して歳末助け合い、社会福祉増進、災害復興支援の趣旨を述べながら募金を呼びかけた。十一万三千七百三十二円の浄財が寄せられ、地球救済事務局へ寄託。

九州東教区本部

・ 第一教部では十二月一日、総勢九名

が国東町、武蔵町、安岐町にて街頭托鉢と戸別托鉢を実施。各地区ご協力いただいた方々に御礼を申し上げると共に、今後托鉢を行う場所を検討し、さらに活動を盛り上げられるよう取り組みたい。ただ、厳しいところもあるのも否めない。三万円の浄財が寄せられ、地球救済事務局に寄託。



・ 第二教部では十二月一日、国東市、豊後高田市内各寺院において檀信徒に呼びかけを行った。四万五千円の浄財が寄せられ、地球救済事務局に寄託。

・ 第三教部では十二月一日、豊後高田市にて総勢十名が参加し、四人一組にて商店街等にて街頭托鉢を実施。毎年このことから、托鉢を待っていて下さる市民が大勢いらっしやった。あと実施日が火曜日のため、商店街の定休日と重なり少し寂しくもあつ

た。豊後高田市交通安全協会に七万円、地球救援事務局に八万五千七百六十円を寄託。

・第四教部

では十二月一日、大分市のデパート前にて総勢十名で街頭托鉢



を実施。昨年より駅ビルの開業により人通りが少なく感じた。通行人には、活動する僧侶の姿は認知されたいと思う。直接募金に結びつかなくても活動自体を理解してもらうよい機会だった。三万五百六十八円の浄財が寄せられ、地球救援事務局へ寄託。第五教部では部内各寺院より寄せられた一万五千円を地球救援事務局に寄託。

・第六教部では十二月一日、部内各寺院で托鉢を実施。地球救援事務局に一万円を寄託。

九州西教区本部

・筑前部では十一月二十五日、小雨が降る中で福岡市博多区川端商店街を

中心に総勢十七名が二班に分かれて戸別托鉢を行った。商店街は店舗も多く、個人経営の店では、浄財を喜捨いただいた。街頭托鉢では、通行人の無関心さを痛感した。地球救援事務局に四万六千九百七十九円を寄託。

・久留米部

では十二月七日、久留米市商店街に



て総勢十名が戸別托鉢を実施。大雪の日でしたが、天気も良く、商店街の方々も毎年恒例となり多数の方が、托鉢を待っていただいております。地球救援事務局に四万八千七百十円を寄託。

・柳川部では十二月七日、総勢八名が参加し戸別托鉢を実施。例年のことであり、市民、商店街の方々から温かい浄財をいただきました。ただ、

商店街が空き店舗が目立つようになっており個人商店の高齢化、後継者の問題が出てきているように感じた。地球救援事務局へ三万三千八百八十九円を寄託。

・熊本部では住職八名が宇土商店街にて戸別托鉢を実施。シャッター通りを年々感じる中に浄財を下さる方々には、行への前向きな応対を感じました。また、部内寺院が各寺で集めた募金も当日持参いただいた。地球救援事務局に三万九千三百五十五円を寄託。

・対馬部では十二月十五日、対馬市厳原町にて総勢八名が戸別托鉢と街頭托鉢を実施。当日はハンドマイクを使い道行人に募金を呼びかけ商店には直接戸口でお願いをした。平日で人通りも少なかったが戸口では快く協力をいただいた。二万三千円を地球救援事務局に寄託。

三岐教区本部

十一月二十七日、岐阜一部の新善光寺の檀信徒宅を中心に総勢二十名が戸別托鉢を実施。時雨模様の中の托鉢であったが、檀信徒からは、丁寧に浄財をいただき托鉢を終えることができた。

地球救援事務局に五万円を寄託。



また、托鉢途中、下校中の小学生等に「何をしているの」と聞かれ趣旨を説明した。戸口でお経を唱える様子が珍しいようであった。

東海教区本部

・東海教区本部では十二月二十一日、名古屋市中種区の覚王山日泰寺本堂前にて総勢七名が托鉢を実施。毎年恒例の縁日の托鉢であり、温かくご協力いただいた。雨天で気温が低く例年より参拝者は少なめであったが温かいお気遣いの言葉をいただき浄財を預かった。中日新聞社会事業団年末助け合い五万円、天台仏青連盟救援委員会に一万六千六百七十七円、地球救援事務局に五万円を寄託。

北陸教区本部



援事務局に十八万六千八百円寄託。

十一月二十九日、越前市畑町・向新保町の二町にて総勢十八名が戸別托鉢を実施した。妙永寺近くの町なので、好意的に浄財をいただくことができた。地球救

神奈川教区本部



十一月三十日、平塚駅北口にて総勢

四十七名が、一組七〜八名で六組に分かれ、幟旗を掲示しチラシ、ティッシュを配布し街頭托鉢を実施した。天台宗を掲げて

全国一斉托鉢を行っている旨を伝え、募金への協力を呼びかけた。通行の方々から多く浄財を頂戴し、また教区内の各寺院がそれぞれ集めた募金も持参いただいた。教区仏青救援募金に十万円、地球救援事務局に十万円（募金より七万五千五百三十七円。教区より二万四千四百六十三円）を寄託。

東京教区本部

・東京教区本部では、十二月十二日、聖観音宗浅草寺宝蔵門前にて総勢四十三名が街頭托鉢を実施。外国人観光客多かつたが、趣旨を理解してもらい沢山の方に協力していただいた。托鉢啓発用品に外国の方に分かりやすい表記（英語、中国語等）があるともっと協力してもらえると感じた。あしなが育英会に十五万円、港区社会福祉協議会に六万一千四百三円、地球救援事務局に十五万円をそれぞれ寄託。

・東京教区仏教青年会では、十二月二日、明治神宮外苑前イチョウ並木にて総勢十七名が二カ所に分かれ街頭托鉢を実施。仏教青年会の毎年恒例となっている青山での助け合い募金活動は、晴天に恵まれイチョウの紅

葉がきれいな中で実施できた。昨年
も協力していただいた方や天台宗に
関心をもたれ質問される方もおられ、
教区宗務所のある青山の土地で、布
教ができたのではないかと思う。日
本赤十字社二万円、天台仏青連盟救
援委員会一万円、地球救援事務局に
二万円をそれぞれ寄託。

北総教区本部

十二月一日、

印西市木下駅
周辺を総勢十
七名が二組に
分かれ戸別托
鉢を実施。「共
に慈愛の心を
養い、安心の
抱ける社会と
成るように努
めます。ご協
力お願いしま



す。」と記したチラシを事前に配布し
協力を仰いだところ、ほとんどの方に
快く協力をしていた。まさに慈
愛の心を感じる托鉢であった。十六万
九千四百四十五円を地球救援事務局に
寄託。

南総教区本部



十二月四
日、松尾駅
周辺にて総
勢十六名が
街頭托鉢を
実施。当日
は寒風が吹
く中ではあ
ったが、僧
侶の姿を見
て、皆さん
大変好意的であった。タイ・プラティ
ーブ財団に五万円、地球救援事務局に
五万六千七百円を寄託。

群馬教区本部

・南前橋部では十二月五日、総勢百十
七名が南前橋部公田町乗明院周辺に
て戸別托鉢を実施。群馬教区本部に
九万七千六百八十五円、地球救援事
務局に五十万円を寄託。

・北前橋部では十二月四日、総勢十四
名が前橋市大聖寺周辺にて戸別托鉢
を実施。二十一万七千三百八十八円
の浄財が寄せられ、上毛新聞社に十
万円、群馬教区本部に五万円、地球
救援事務局に六万七千三百八十八円

をそれぞれ寄託。

・西前橋部では十二月一日、総勢三十
八名が西前橋部大泉寺周辺にて戸別
托鉢を実施。仏教保護会に五万円、
上毛新聞社に一万八千五百七十二円、
群馬教区本部に五万円、吉岡町社協
に三万円、地球救援事務局に十万円
をそれぞれ寄託。

・高崎部では十二月四日、高崎駅前、
高崎市街地にて街頭托鉢と戸別托鉢
を実施。寄せられた浄財六万円を群
馬教区本部に三万円、地球救援事務
局に三万円をそれぞれ寄託。

・富岡部では十二月五日、総勢二十三
名が富岡市内、甘楽町内にて戸別托
鉢を実施。群馬教区本部に二万円、
地球救援事務局に二万円、社会福祉
協議会に八万二千二百四十円をそ
れぞれ寄託。

・多野部では十一月一日、多野部普賢
寺で行われた多野部檀信徒伝道師会
研修会にて募金活動を実施。群馬教
区本部へ四万円、地球救援事務局に
五万七千八百円を寄託。

・東前橋部では十一月二十四日、部内
各寺院にて実施。群馬教区本部と地
球救援事務局に六万円をそれぞれ寄
託。

・北群馬部では十二月五日、渋川市内にて総勢六十五名が戸別托鉢を実施。上毛新聞社に十万円、渋川市社会福祉協議会に十万円、群馬教区本部に七万七千円、地球救援事務局に七万円を寄託。

・桐生部では十二月六日、総勢二十名が桐生市本町内にて街頭托鉢を実施。群馬教区本部に二万二千七百八十八円、地球救援事務局に三万円を寄託。

・世良田部では十二月一日、部内費より集まった内から、群馬教区本部に一万五千円、地球救援事務局に一万五千円をそれぞれ寄託。

・下仁田部では十二月一日、下仁田町と南牧村で戸別托鉢を実施。下仁田町社会福祉協議会に九万六千六百六十六円、南牧村社会福祉協議会に四万三千七百九十九円、仏教保護会に二万円、群馬教区本部に一万五千円、地球救援事務局に一万五千円をそれぞれ寄託。

茨城教区本部

・十二月五日、第二部千光寺周辺を総勢十六名が戸別托鉢を実施。当日は天候に恵まれ、檀信徒の方々から温かい言葉をかけていただき円滑に托

鉢を行うことができた。茨城教区ラオス学校建設基金に五万円、地球救援事務局に七万一千十円を寄託。

・第二部では十一月三十日、筑西市下館駅周辺にて総勢五名が街頭托鉢を実施。当日は穏やかな日和に恵まれ、一隅を照らす運動キャラクター「しようぐうさん」の魅力の助けもあり、老若男女を問わず多数の方々より浄財が寄せられた。筑西市社会福祉協議会に浄財全額十二万五千八百七十七円を寄託。

栃木教区本部

・十二月一日、宇都宮駅西口ロータリー前にて総勢二十一名が街頭托鉢を実施。十五時より十七時まで数グループに分かれ、各箇所にて通行人に向け大きな声で募金の呼びかけを行った。夕方になるにつれ駅やロータリーの利用者の通行量も増加し、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方々に沢山の募金協力をいただくことができた。地球救援事務局に七万五千五百八十六円を寄託。

福島教区本部

・十二月一日、総勢二十九名がいわき

駅前にて街頭托鉢を実施。

・六万円の浄財が集まり、福島民報へそれぞれ三万円を寄託。

・第四部龍

興寺支部では、十一月三十日に「第二十八回歳末たすけあい詠讚托鉢」として詠讚会、伝道師会の会員など総勢十八名が津美里町、高田町にて戸別托鉢を実施。福島民報社教育福祉事業団と地球救援事務局にそれぞれ四万七千九百十三円を寄託。

陸奥教区本部

・十一月二十二日、第二部の観福寺において総勢四十名が参加し、戸別托鉢を実施。当日は冷え込みが厳しく、まさに向寒の時期を肌で感じる日となりましたが、幸いにも好天に恵まれ、仏天のご加護の中で托鉢を行うことができました。観福寺檀信徒の皆様には、





連休で諸事ご多忙のところではありましたが、托鉢僧が近づく」と読経に手を合わせ「ご苦勞様です。国内外の災害で苦勞している皆様、恵まれない子供達に少

しでもお役にたててください。震災後の早なる復興を願います。」と物心両面のあたたかいご協力をいただくことができました。一隅を照らす運動を皆で実践する有意義な一日となりました。地球救援事務局へ十八万三千八百四十五円を寄託。

山形教区本部

十一月十九日、米沢市内にて立正佼正会米沢教会と合同で総勢五十三名（内天台二十八名）が街頭托鉢と戸別托鉢を実施。僧侶と立正佼正会員が一組になり、住宅街や商店街を一軒一軒



お願いし回った。多くの方々からあたたかいお言葉と共に浄財を託された。山新放送愛の事業団に六万九千八百六十五円、地球救援事務局に十万円を寄託。

平成二十七年支部活動助成支部

一隅を照らす運動総本部では、平成十九年度から宗祖大師のお言葉「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」の精神で社会奉仕活動を実践する支部を奨励し、助成を行っております。平成二十七年支部は次のとおり四十三支部。

滋賀教区本部

東光寺支部（志井浩順支部長）

- 事業名…地藏盆と地域のつどい
- 活動年数…一年
- 該当事業…福祉・文化
- 活動回数…年一回
- 開催場所…滋賀県大津市仰木
- 参加人数…寺族五名・檀信徒三十名・一般二十名
- 要旨…



念仏講の行事を広く一般にも開放し、近隣を中心に参加を呼びかけた。地域社会に開かれた寺院のあり方の大切さ、つながりの必要と人の集まる場としての寺院を再確認。

櫛野寺支部（三浦密照支部長）

- 事業名…奉納相撲
- 活動年数…四十四年
- 該当事業…まちづくり・文化

●活動回数…年一回

●開催場所…滋賀県甲賀市甲賀町樺野

●参加人数…寺族二名・檀信徒七十名・一般五十名

●要旨…

土俵にて法楽の後、地元小学校四年生が相撲を取り組んだ。天候にも恵まれ保護者も応援に訪れ、多くの参詣者と共に声援を送っていた。奉納相撲後に住職より法話、仏像等の文化財を見学し、地元伝統行事と文化に親しんだ。



稱名寺支部 (武内昭雄支部長)

●事業名…社会貢献活動

●活動年数…十五年

●該当事業…清掃奉仕・環境保全・まちづくり・慰問

●活動回数…年二十四回

●開催場所…滋賀県近江八幡市安土町

下豊浦

●参加人数…寺族三名・檀信徒四十七名・一般二名

●要旨…物作り、健康体操、ゲーム、歌唱、1人暮らし家庭への訪問

を行っている。会員相互の交流、助け合いを通じて家庭や社会を明るく、心豊かな社会の実現を目指し展開している。

成願寺支部 (山岡智恢支部長)

●事業名…お経の習礼と清掃奉仕

●活動年数…十二年

●該当事業…清掃奉仕・教育・文化

●活動回数…年十二回

●開催場所…滋賀県東近江市小脇町

●参加人数…

寺族一名・

檀信徒十五

名・一般二

十一名

●要旨…

月に一回お経の勉強会を開催し、年に数回清掃奉仕活動



や他の寺院参拝を行っている。天台宗の教えを理解し、その実践に努める。

百濟寺支部 (濱中亮明支部長)

●事業名…愛犬部檀信徒会「一隅を照らす運動」実践活動

●活動年数…六年

●該当事業…清掃奉仕

●活動回数…年一回

●開催場所…滋賀県犬上郡甲良町

●参加人数…住職五名・寺族六名・檀

信徒二十八名

●要旨…甲

良養護学校周辺の樹木の剪定や除草、側道の草刈り、水路の清掃等多岐にわたって活動している。天台宗檀信徒及び寺社の活動ということが人の心に残る事業として継続し、継承していく。



兵庫教区本部

長光寺支部（雲井明善支部長）

- 事業名…地域高齢者の慰問・慰勞事業
- 活動年数…二十五年
- 該当事業…福祉・慰問
- 活動回数…年五十四回
- 開催場所…兵庫県明石市大久保町谷八木
- 参加人数…寺族二名・檀信徒八名・一般八名
- 要旨…谷八木公民会、老人憩いの家等において、喫茶やおしゃべりの場を設け孤独になりがちな高齢者に交友の場を提供している。また、年に数回友愛訪問や、毎月施設へ勤勞奉仕に赴いている。

高藏寺支部（福井邦準支部長）

- 事業名…環境保全・清掃奉仕事業
- 活動年数…四十年
- 該当事業…清掃奉仕・環境保全
- 活動回数…年一回
- 開催場所…兵庫県篠山市高倉
- 参加人数…檀信徒五十名
- 要旨…年に一度、七月の千日会

法要前に檀信徒総出で境内、山林の環境整備・清掃作業にご奉仕していただき、寺領の景観を保全している。



常行院支部（岡山亮徹支部長）

- 事業名…里山ふれあいの森づくり
- 活動年数…五年
- 該当事業…環境保全
- 活動回数…年十回
- 開催場所…兵庫県加西市山下町字城山
- 参加人数…寺族一名・檀信徒五十九名
- 要旨…地域住民のふれあいを持つる場所の提供や、里山の整備、保全管理を行っている。

彌勒寺支部（草別善哉支部長）

- 事業名…ほていまつり

- 活動年数…十三年
- 該当事業…リサイクル・文化
- 活動回数…年一回
- 開催場所…兵庫県姫路市夢前町寺
- 参加人数…寺族五名・檀信徒二十名・一般十名
- 要旨…毎年十一月三日にほていまつりを実施し、境内を無料開放してフリーマーケットを行っている。近年は地域の住民による農作物等の販売や、地元小学生のコーラス等も行い、終日賑わっていた。



白毫寺支部（荒樋勝善支部長）

- 事業名…植樹植栽及び交流事業
- 活動年数…二十五年
- 該当事業…環境保全・まちづくり
- 活動回数…随時
- 開催場所…兵庫県丹波市市島町白毫

寺

●参加人数…寺族五名・檀信徒四十五名・一般二十名

●要 旨…九尺フジと一千本の石楠花の管理と「白毫寺九尺ふじまつり」による交流事業の実施。モミジ、桜、紫陽花、石楠花等の植栽管理。丹波市観光協会「もみじめぐり」事業に協賛した交流事業の実施。

山陰教区本部

観音院支部（中村彰恵支部長）

●事業名…蛍放生会（天台声明と蛍観賞のゆうべ）

●活動年数…三年

●該当事業…まちづくり・文化

●活動回数…年一回

●開催場所…鳥取県鳥取市上町

●参加人数…寺族六名・檀信徒六十名・一般七十名

●要 旨…名勝に指定されている庭園を保存継承していく方法の一つとして、夜間鑑賞を開催し、地域の活性化に寄与することを目的としている。また、「蛍放生会」を通して命の尊さを考える鑑賞会としている。

大日寺支部（見上知正支部長）

●事業名…子ども田んぼ

●活動年数…八年

●該当事業…清掃奉仕・環境保全・教育・まちづくり

●活動回数…年間を通して

●開催場所…鳥取県倉吉市桜

●参加人数…寺族一名・檀信徒二十名

●要 旨…

休耕田を活用して、地区の子ども

と大人が共に田植えか

ら精米まで一年を通し

て共同作業による農作業の実体験

と食物への感謝を感じさせる。年々子どもたちの田畑への見方から興味深くなっていることが窺える。



●事業名…一隅大会

弥勒寺支部（柴山宣慶支部長）

●活動年数…三十五年

●該当事業…文化

●活動回数…年一回

●開催場所…鳥取県鳥取市青谷町

●参加人数…寺族二名・檀信徒三十名

●要 旨…

年一回開催

している

「弥勒寺一隅大会」も

三十年以上

になる。御

詠歌奉納の

後、一隅会

員の発表が

あり、その

後は長谷寺・奥野秀應師を講師に迎え、法話をいただいた。



善光院支部（乾光伸支部長）

●事業名…もちつき交流会

●活動年数…三年

●該当事業…福祉

●活動回数…年一回

●開催場所…鳥取県鳥取市福部町細川

●参加人数…寺族二名・檀信徒五十名・一般十名

●要 旨…

もちつき会を開催し、年

年齢層を問わず地域住民の交流の場として寺院を開放している。

皆成院支部（清水成眞支部長）

- 事業名…三徳山夏の集い
- 活動年数…十三年
- 該当事業…清掃奉仕・教育・文化
- 活動回数…年一回
- 開催場所…鳥取県東伯郡三朝町三徳
- 参加人数…寺族一名・檀信徒五名・一般二十名

● 要 旨…鳥取県在住の国際交流員や外国語指導助手等によって三徳山の歴史、天台宗「一隅を照らす」を海外の方へ説明。その後、三徳山投入堂への登山、三朝温泉への入浴体験。宿坊では、命の大切さを精進料理で学び、座禅等で仏教を通して様々な事を学ぶ機会となった。



興隆寺支部（市原修俊支部長）

- 事業名…山寺コンサート
- 活動年数…六年
- 該当事業…まちづくり・文化・青少年健全育成
- 活動回数…年一回
- 開催場所…山口県山口市大内御堀
- 参加人数…寺族三名・檀信徒二十名・一般三百名

● 要 旨…山口の伝統芸能である鷲流狂言を中心にしながら、幼児のわらべ唄、児童による太鼓、雅楽（童舞）、二十五絃箏ユニットによる演奏、ブラスバンド演奏等趣向を凝らした催しを開催している。

四国教区本部

妙法寺支部（大岡真祥支部長）

- 事業名…丸亀ジャズストリート
- 活動年数…二年
- 該当事業…まちづくり・文化・音楽活動
- 活動回数…年一回
- 開催場所…香川県丸亀市
- 参加人数…寺族三名・一般二百名
- 要 旨…音楽文化の振興と中心市

街地の活性化を目的としてイベントを開催している。多くのバンドが演奏するため会場は無償にて提供している。



市街地の空洞化が進んでいるが、町おこしの行事として有意義であった。

玉瀧寺支部（大岡真祥支部長）

- 事業名…清掃奉仕・伝統文化活動
- 活動年数…二十年
- 該当事業…清掃奉仕・環境保全・まちづくり・文化
- 活動回数…年十二回
- 開催場所…香川県丸亀



市広島町市井

●参加人数…檀信徒八名

●要旨…地区の檀家が協力して地元の清掃奉仕や寺社の伝統行事を守る文化活動に従事している。過疎の島かつ限界集落で住民も減っているが、協力して今後も継続したい。

九州東教区本部

眞光寺支部（系永崇幸支部長）

●事業名…公開文化講座

●活動年数…十年

●該当事業…福祉・文化

●活動回数…年一回

●開催場所…大分県大分市大字千歳

●参加人数…寺族二名・檀信徒百名・一般百名

●要旨…

今回は落語家の露の団、姫師を招き、落語の公演を行った。仏教を易しく、楽しく語っていた。だき好評だ



った。その後、参加者の質疑応答の場を設け、会場は盛り上がった。次回は檀家さんの中から生き方と活動をお話ししていただくよう計画をしている。

善正寺支部（野中玄雄支部長）

●事業名…第三十回延岡「橋の日」

●活動年数…三十年

●該当事業…清掃奉仕・環境保全・まちづくり

●活動回数…年一回

●開催場所…宮崎県延岡市中央通町安賀多橋

●参加人数…寺族二名・檀信徒二十名・一般二百八十名

●要旨…

今年で三十回目の「橋の日」は延岡市民にとつての夏休み期間の恒例行事として定着し、多くの方が参加した。



地域の自然環境、道路安全、健康、清掃美化活動を交えた市民をあげての奉仕活動として定着しているため、今後もより一層参加を促し、郷土愛を高めていきたい。

長徳寺支部（大岐和典支部長）

●事業名…住民ふれあい活動・宿泊研修・清掃活動

●活動年数…三年

●該当事業…清掃奉仕・教育

●活動回数…年三回

●開催場所…宮崎県宮崎市清武町加納字不動迫

●参加人数…檀信徒三十名・一般百名

●要旨…本堂前にて太鼓、三味線の演奏等の

住民ふれあい活動（コンサート）を開催。一泊二日での修行体験では食事作法、座禅等を実施している。お寺の音



出る物を探し、その物の名前や由来を勉強する等、子どもたちは毎年喜んで参加している。また、彼岸中日には境内地と周辺の清掃草刈奉仕を行っている。

九州西教区本部

安禅寺支部（松本達淳支部長）

- 事業名…地区の和
- 活動年数…五年
- 該当事業…清掃奉仕・環境保全
- 活動回数…年二回
- 開催場所…佐賀県神埼郡吉野ヶ里町松隈
- 参加人数…寺族一名・檀信徒二十七名

● 要 旨…寺、宮の広場境内裏山公園を草刈りや花植えを行い地区の和を図る。男性は草刈機や軽トラック、女性はほうきやカマを持参し、各自見合った作業を行う。皆さん当然の作業として少しの



抵抗もなく、気持ちよく奉仕してくださっている。

三岐教区本部

正行院支部（傍島法苑支部長）

- 事業名…正行院月例行事
- 活動年数…二十一年
- 該当事業…教育・文化
- 活動回数…年十二回
- 開催場所…岐阜県不破郡垂井宮代
- 参加人数…寺族三名・檀信徒四十六名・一般三百五十四名（延べ人数）

● 要 旨…正行院月例行事を開催し、地域交流、いろいろな仏様のお話をしている。本年度は西国薬師霊場巡りを実施。今後も月例行事を続けていきたい。



寶光院支部（鈴木孝慈支部長）

● 事業名…清掃奉仕活動

- 活動年数…六十年
- 該当事業…清掃奉仕・環境保全
- 活動回数…年一回
- 開催場所…岐阜県大垣市野口
- 参加人数…寺族十名・檀信徒二十名
- 要 旨…寺院の南を流れる杭瀬川の環境保全のために、ゴミ拾いや草刈りを行っている。

東海教区本部

日輪寺支部（輪田友博支部長）

- 事業名…奉賛会
- 活動年数…十年
- 該当事業…環境保全・教育・まちづくり・文化
- 活動回数…年九回
- 開催場所…愛知県春日井市二子町
- 参加人数…寺族五名・檀信徒五十名・一般五十名
- 要 旨…さまざまな行事や活動を通して檀信徒、地域の人々に仏教や伝教大師のみ教えを伝えている。特に若い世代に働きかけ仏教や天台宗のすばらしさに関心を持ってもらえる事を目的としている。

根福寺支部（林敬順支部長）

- 事業名…ボーイスカウト稲沢第九団
- 活動年数…三十五年
- 該当事業…教育
- 活動回数…年三十二回
- 開催場所…愛知県稲沢市祖父江町祖父江地域
- 参加人数…寺族二名・檀信徒八十名
- 要旨…青少年の健全育成、信仰奨励、良い公民を作るために宗教を基盤とした円満な人間形成をはかっている。年間を通じて野外活動、地域行事への積極的な参加、奉仕活動に取り組んでいる。

圓觀寺支部（加藤大道支部長）

- 事業名…発心会・福祉施設訪問
- 活動年数…四年
- 該当事業…清掃奉仕・福祉・教育・まちづくり・慰問・文化
- 活動回数…年一回
- 開催場所…愛知県知多郡武豊町富貴郷北
- 参加人数…寺族五名・檀信徒三十名
- 要旨…本年は「授戒勤行儀」を

利用して発心会を厳修した。発心

会は始めたばかりだが、いろいろな機会をとらえて仏教の知識や教えを説いていきたい。また、介護老人福祉施設にも慰問し、法話等を行っている。



瀧山寺支部（山田亮盛支部長）

- 事業名…五節句の宴
- 活動年数…三年
- 該当事業…清掃奉仕・環境保全・福祉・教育・文化
- 活動回数…年五回
- 開催場所…愛知県岡崎市滝町字山籠
- 参加人数…寺族三名・檀信徒四十名・一般四十名
- 要旨…古くから伝わる節句の文化の伝承と新しい瀧山寺の節句を創造する。アート、音楽、和の文化の観賞と地元食材を使用した精進料理

を提供し、地域の人々との交流をはかる。

東光寺支部（辻亮駿支部長）

- 事業名…一隅を照らす運動の教化
- 活動年数…五十五年
- 該当事業…教化活動
- 活動回数…年一回
- 開催場所…静岡県島田市東光寺
- 参加人数…住職十名・寺族二名・檀信徒三十八名
- 要旨…

講師に宮本祖豊師を招き「一隅を照らす」という演題で講演いただいた。師の素晴らしい話力と声量で、聴衆一同真剣に聞き入った。各寺院の現状報告や計画していることなど、寺を取り巻く問題点等について活発な意見交換を行った。



信越教区本部

長岳寺支部（入亮純支部長）

- 事業名…沙羅双樹こどもまつり
- 活動年数…十三年
- 該当事業…教育・まちづくり・リサイクル・文化
- 活動回数…年一回
- 開催場所…長野県下伊那郡阿智村駒場
- 参加人数…寺族三名・檀信徒十三名・一般三十三名
- 要旨…地域の子どもたちを無料で招き、生命の大切さと尊さを伝え続けている催しである。情操教育の要素を持ちながらクイズや手遊び、歌や踊りの中、子どもたちが自然に読み聞かせの世界、時間を楽しみ参加する内容となっている。

正教院不動教会支部

（山崎晃圓支部長）

- 事業名…池ヶ原老松会
- 活動年数…四十年
- 該当事業…清掃奉仕・環境保全
- 活動回数…年三回
- 開催場所…新潟県小千谷市池ヶ原

- 参加人数…住職二名・檀信徒十八名・一般三名
- 要旨…



池ヶ原町内の町民にとつて心の拠り所でもある場所を、当会では春、夏、秋と三回清掃活動を実施しており、多くの会員が参加してくれている。

神奈川教区本部

興禪寺支部（金子慈淵支部長）

- 事業名…興禪寺雅楽会
- 活動年数…歴史は百四十年位
- 該当事業…文化
- 活動回数…年数回
- 開催場所…神奈川県横浜市港北区高田町
- 参加人数…住職十名・寺族十名・檀信徒七十名・一般六十名
- 要旨…港北区仏教会「花祭り」において福聚教会興禪寺支部会員に

よる御詠

歌の奉詠。

次に雅楽

会による

舞楽「蘭

陵王」(仮

面を付け、

戦に大勝

利したイ

メージの

舞楽)を

披露。参加者からは好評を得た。その他にもイベントへ出演している。



南総教区本部

萬福寺支部（奈良康信支部長）

- 事業名…サロンいこい
- 活動年数…十一年
- 該当事業…清掃奉仕・福祉・教育・慰問・リサイクル
- 活動回数…年二十四回
- 開催場所…千葉県鴨川市天津
- 参加人数…寺族四名・檀信徒十八名・一般十名
- 要旨…作成した作品を地域の学校に届けると共に、相互の交流をはかる。高齢者の体力維持のための運

動指導を行う。地域の住民が健康で生き生きと安心して暮らせるまちづくり、社会づくりに寄与している。

群馬教区本部

萬福寺支部（守山俊尚支部長）

- 事業名…寺遊会
- 活動年数…二年
- 該当事業…文化
- 活動回数…年二十四回
- 開催場所…群馬県前橋市女屋町
- 参加人数…寺族一名・檀信徒三十五名・一般五名
- 要旨…古布での製作を中心に童謡や軽い体操、簡単なクッキング等、多彩な内容を企画。活動後にはティールタイムで楽しく語り合う。寺に集い絆を深め、相互に支え合い住み良い社会を作る。

禪養寺支部（小出晃正支部長）

- 事業名…自献会
- 活動年数…十年
- 該当事業…清掃奉仕・環境保全・まちづくり
- 活動回数…年六回

- 開催場所…群馬県前橋市山王町
- 参加人数…寺族二名・檀信徒三十名・一般四名
- 要旨…消防署に申請し、通学路沿いにある山の雑木林の下草枯れ木の野焼きを行う。また、子どもたちが安心、安全な登下校が出来るように、通学路の草刈りや雑木林の枝の伐採、側溝周辺のゴミ拾い清掃を実施する事で子供力、大人力、地域力を育んでいる。

恩行寺支部（竹村興肇支部長）

- 事業名…道路清掃事業
- 活動年数…九年
- 該当事業…清掃奉仕
- 活動回数…
- 開催場所…群馬県高崎市吉井町長根
- 参加人数…寺族二名・檀信徒二十六名
- 要旨…地域の市道や農道にペットボトルや空き缶等のゴミを捨てて行く人がおり、そのゴミの清掃や道路脇の草刈りを行っている。

善龍寺支部（米原祐尋支部長）

- 事業名…福祉事業の支援協力
- 活動年数…五年
- 該当事業…清掃奉仕・環境保全・福祉・教育・まちづくり
- 活動回数…
- 開催場所…群馬県桐生市新里町武井
- 参加人数…寺族三名・檀信徒八名
- 要旨…会員の菩提寺である善龍寺の宗教活動を支援、協力することにより、知的障害者福祉施設の経営及び運営に寄与する。

正圓寺支部（山本堯光支部長）

- 事業名…正圓寺古墳の下草刈り
- 活動年数…十五年
- 該当事業…清掃奉仕・環境保全
- 活動回数…年二回
- 開催場所…群馬県前橋市堀之下町
- 参加人数…寺族三名・檀信徒八十名
- 要旨…近年は草刈機なども多くの方が持参してくれるようになり、少々の雨でも参加してくれるなど意識も高まり、年中行事として受け入れられている。文化財の環境保全を目的に今後も継続していきたい。

正法院支部（藤井祐心支部長）

- 事業名…清掃奉仕活動
- 活動年数…五十年
- 該当事業…清掃奉仕
- 活動回数…年十二回
- 開催場所…群馬県前橋市富田町
- 参加人数…寺族四名・檀信徒四十名・一般十名
- 要旨…本堂、境内観音堂の掃除をしていただき、その後お茶を飲みながらコミュニケーションをとり、読経を行う。また、正法院杯ではスポーツを通しての交流を行っている。他にも座禅会は地域の子どもたちを中心に、多いときには三十名ほどで参加してもらい、仏教を通じて生活を振り返ってもらうことを心がけている。



常光寺支部（堀越教之支部長）

- 事業名…「下仁田ジオパーク」青倉エリア及び世界遺産の環境保全
- 活動年数…十年
- 該当事業…清掃奉仕・環境保全・教育・文化・祈り
- 活動回数…
- 開催場所…群馬県甘楽郡下仁田町
- 参加人数…寺族四名・檀信徒四十三名・一般四名
- 要旨…常光寺「共生の会」は、一隅を照らす運動の行動の実践三つの柱をさらに具体化させ「学ぶ」「祈る」「ボランティア」として活動している。当地域は日本ジオパークに登録され、さらに世界遺産「荒船風穴」の町として注目を集めており、来客が快く見学できるよう環境保全と清掃活動に参加し、参加者の生き甲斐の創造を目的に活動している。

茨城教区本部

来迎院支部（深谷尚永支部長）

- 事業名…御詠歌、読誦会、仏教文化研修会
- 活動年数…十六年

- 該当事業…文化
- 活動回数…年六十回

- 開催場所…茨城県龍ヶ崎市駒馬町
- 参加人数…寺族二名・檀信徒二十五名

- 要旨…檀信徒の教化育成、一隅を照らす人材を育てるため、毎月御詠歌研修会、写経会仏教文化講座を開催している。

安楽律法流本部

宗休寺支部（佐藤舜海支部長）

- 事業名…関善光寺ふれあいプロジェクト
- 活動年数…五年
- 該当事業…教育・まちづくり
- 活動回数…
- 開催場所…岐阜県関市西日吉町
- 参加人数…寺族二名・檀信徒十名・一般三十名
- 要旨…NPO法人、市民団体、ボランティア団体等と共同し、既存の枠組みにとらわれない取り組みの創出等、寺院を地域社会との新しい「対話」と「交流」の場とする様々な事業を展開し、寺院を核に新しい地域コミュニティ作りに取り組んでいる。

玄清法流本部

成就院支部（梶谷隆幸支部長）

- 事業名…国登録有形文化財箱嶋家住宅和の文化シリーズ荒神祭
- 活動年数…四年
- 該当事業…文化
- 活動回数…年一回
- 開催場所…福岡県福岡市東区馬出
- 参加人数…寺族二名・檀信徒二十六名

●要旨…箱嶋家住宅は今でも「荒神釜」が残る数少ない住宅の一つで、国の有形文化財である。そのような場所で荒神琵琶の演奏が出来ることは、信仰の護持と文化の維持発展につながる。来ていただいた参加者も毎回興味深く聴いていただいている。



一隅を照らす運動総本部だより

一隅を照らす運動推進大会

○京都教区大会

京都教区本部（若林節哉教区本部長）では、平成二十七年十月十八日に京都市左京区の眞正極樂寺（竹内長敬支部長）を会場に、京都教区一隅を照らす運動推進大会を開催し、約百五十名の参加者が集まった。

大会は若林教区本部長の挨拶で開会し、続いて、横山照泰一隅を照らす運動総本部長より祝辞があった。

第一講では、平家琵琶奏者の荒尾努氏による琵琶の弾き語りが披露された。「敦盛の最後」など、耳にしたことのある平家物語を歌にした心地の良いメロデーに参加者は聴き入っていた。

続いて実践布教の場として、天台宗中央布教養成所研修生である兵庫教区斑鳩寺副住職の前岡靖文師による「煩惱とのおつきあい」と題した法話が行われた。法話では、「忘己利他の実践を心がけてください」と説いていた。

第二講では、三千院門跡御門主の堀澤祖門師（同運動顧問）が「みんな幸せに」と題して講演された。

堀澤御門主は、自身が今までに経験



された事を中心に話され、参加者は興味深そうに耳を傾けていた。講演の最後には、「皆さんが本来持ち合わせている仏性に気付き、幸せになっただきたい」と語られた。

大会最後は、京都教区檀信徒会会長の山本喜久氏の挨拶で閉会した。

○滋賀教区大会

滋賀教区本部（山岡智恢教区本部長）では、平成二十七年十月三十一日に大津市堅田の大津市北部地域文化センターを会場に、滋賀教区一隅を照らす運動推進大会を開催し、約二百四十名の参加者が集まった。

大会は山岡教区本部長御導師による法楽で幕を開けた。開会式では、今年



度支部活動助成金の認定を受けた支部に横山照泰一隅を照らす運動総本部長より支部活動助成金認定証が手渡され、併せて祝辞が述べられた。

大会では、一隅を照らす運動副理事長でもある小堀光實延暦寺執行が「伝教大師様の御心とともに」と題し講演された。

小堀師は、自らの体験を交え「心は見えないが、行動により心の動きが分かる」と語り、また「人の辛さは、『思いやり』と言うやり一本で幸せになる」と参加者に問いかけ会場を笑顔にしていた。

続いて記念公演として、福島教区圓明院法嗣泉智仁師により「今を未来に」と題し、東日本大震災により被災した自らの想いが語られた。和太鼓奉納公演では、叡山学院同窓生有志の声明とともに披露された。

参加者は、震災により絶望の淵から立ち上がった泉師の力強い和太鼓の響きに心を打たれていた様子であった。大会最後に、横山照泰一隅を照らす運動総本部長と泉智仁師に浄財が寄託され、教区副所長の安蔵玄周師の挨拶で大会の幕が閉じられた。

○陸奥教区大会

陸奥教区本部（千葉亮賢教区本部長）では、平成二十七年十一月八日に岩手県平泉町の平泉小学校体育館を会場に「一隅を照らす運動震災復興祈念陸奥教区大会」を開催し、檀信徒ら約五百名が参加した。

大会ではまず、「東日本大震災物故者慰霊・復興祈念法要」が千葉教区本部長御導師のもと執り行われ、参加者全員で『観音経』をお唱えするなど、会場は厳かな空気に包まれた。

続いて、千葉教区本部長の挨拶、横山照泰同運動総本部長より祝辞が述べられた。

講演では、講師に延暦寺一山円庵院住職の宮本祖豊師を迎え、「覚悟の力」と題して講演された。自身の出家得度の経緯や「十二年籠山行」、二十年にも渡る比叡山での修行の日々を話された。

宮本師は自身の経験から、「生きていく上で壁が生じる時がある。そこで更に一步を踏み出して、乗り越えていきたい」と参加者へ力強く訴えていた。

また、津軽三味線奏者の渋谷幸平氏による演奏が行われた。東北地方の歌

を披露され、会場からは口ずさむ声も聞こえてきた。

最後に、陸奥教区本部から平泉町社会福祉協議会と同運動総本部へ寄付の贈呈が行われ、今大会は盛会のうちに幕を閉じた。



一隅を照らす運動ニュース

◎一隅フェスティバル in 石巻を開催

十月十六日に、宮城県石巻市の東雲寺で一隅を照らす運動総本部が主催する「一隅フェスティバル in 石巻」が開催された。同フェスのテーマは「祈りと癒しと笑いのひととき」で一隅を照らす運動企画委員会（見上知正委員長）や陸奥・茨城・栃木・埼玉・群馬などの各教区仏青が実働部隊として盛り上げた。

開会式で横山照泰総本部長は「亡くなった人のためにも、皆さんは一日一日を大事にして、未来に光明を見いだし、希望に向かって進んで欲しい。今回、若いお坊さんたちの協力によって、初めて現地で皆さんと触れあうイベントを催す。出来れば年に一度は触れあいの場を開催したい」と開催趣旨を述べた。

このあと横山総本部長が導師となつて復興祈願法要が厳修された。

続いて群馬天台雅楽会による、雅楽演奏が会場を盛り上げた。

雅楽は、古来より仏教儀式と深くかかわっている日本伝統音楽であるが、私たちの普段の生活は雅楽に親しむ機

会が少ない。

群馬天台雅楽会は、東京に本部を置く天台雅楽会（杜多道雄会長）のもとで、月に二回練習している。田中浩道群馬雅楽会会長によれば、最初は十二人ぐらいからスタートし、現在は約二十五名の会員。群馬天台雅楽会は天台雅楽会の群馬支部的な役割を果たしている。

群馬天台雅楽会は、天台伝統法要の厳修と日本伝統音楽の継承を目的に平成十五年四月よりふきもの（鳳笙、箏



篳、龍笛)、うちもの(太鼓、鉦鼓、鞆鼓)、平成二十五年からはひきもの(琴、琵琶)を宮内庁雅楽部の人間国宝の先生方の指導を受けながら研鑽に励んでいる。新しい住職の任命法要である普山式や落慶法要、施餓鬼法要や、群馬県内の小学校でも音楽の授業、県内外で開催されるふれあいコンサートや各地での災害復興ボランティアに参加しており、祖師先徳鑽仰大法会中に自主講演をぜひやりたいと意気込んでいる。

雅楽コンサートは、一隅を照らす運動企画委員の綾小路乗俊師の司会で勧められた。越殿楽や荒城の月、最後は「ふるさと」が演奏され、全員で合唱するなど大いに盛り上がった。

このあと、群馬雅楽会による雅楽公演のち復興支援寄席が催された。

大いにフェスティバルを盛り上げた仙若氏は、日本の伝統芸能の素晴らしさに感銘を受け、江戸太神楽十三代家元・鏡味小仙氏に師事。一九九八年十月、仙若を拜命し、以降、様々な舞台イベント、フェスティバルなどに出演している。今回のアトラクションでは、大技を次々と決めてみせ、盛大な拍手を浴びていた。

また古今亭文菊師匠は最初「子ほめ」で爆笑を誘い、つぎは「子は鏝」でしつとりとした人情哢を聞かせ参加者を魅了した。

また終日、一行写経、また写仏を希望する参加者には仏青会員が指導した。

最後に横山総本部長から内海正博石巻市社会福祉協議会常務理事に義援金三十万円が寄託された。



◎公開講座を開催

一隅を照らす運動総本部では平成二十七年十月三十日、天台宗務庁大会議室を会場に第十五回・一隅を照らす運動公開講座を開催した。広く一般の方々に参加を呼びかけ、約二百五十名の参加者が集まった。

今回は、天台宗海外寺院インド禅定



林住職のサンガラトナ・法天・マナケ師を講師に迎え、「インドの一隅(ひとすみ)から世界を照らす」と題して講演された。

約一時間の講演の中で、サンガラトナ師が幼少期に来日して修学された話や、インドに戻ってからの活動についての話など、自身の実体験をもとに話をされ、普段なかなか聞くことのできない話に参加者は耳を傾けていた。

講演終了後は、質疑応答の時間を設け、またとない機会に参加者からは多

くの質問があり、会場は大いに盛り上がった。

◎比叡山中学校が義援金を寄託

平成二十七年十一月十日、比叡山学校ボランティア委員会委員長の古山愛子さん（三年生）が来庁し、東日本大震災復興支援の為の義援金として一万七千五百円を横山照泰一隅を照らす運動総本部長に寄託した。

十月一日・二日に同校の文化祭でボランティア委員会はバザーを開催し、売り上げを例年総本部へ寄託している。古山委員長は「被災された方々のために、有効に役立ててください」と寄託



への想いを述べていた。同校ボランティア委員会はその他にも、募金活動や福祉施設への雑巾の贈呈、坂本周辺

の清掃活動など様々な活動に取り組んでいる。

◎NHKに義援金を寄託



平成二十七年十二月四日、総本部は「NHK歳末たすけあい」と「NHK海外たすけあい」へ義援金を寄託した。NHK大阪放送局から赤木俊夫局長に来庁いただき、木ノ下寂俊一隅を照らす運動理事長、小堀副理事長代理の小嶋覚俊同運動理事から目録が手渡された。

歳末たすけあいには、十二月一日に比叡山麓坂本地区で行われた「天台宗全国一斉托鉢」にて寄せられた浄財五十八万七十八円。海外たすけあいには、地球救援事務局から百万円がそれぞれ寄託された。

また、寄託式には比叡山幼稚園から代表して園児五名と保護者五名も出席し、秋に行われたバザーの収益金が園児たちから赤木局長に手渡された。

「歳末たすけあい」海外たすけあい」は国内外の支援の必要な方々のために役立てられる。

◎三院門跡が浄財を寄託

平成二十七年十二月二十五日、三院門跡の北川真祐総務部長が天台宗務庁に来庁され、北川総務部長より一隅を照らす運動総本部へ六十八万六千七百二十円の浄財が寄託された。

この浄財は、京都市左京区大原の三院門跡の地で歳末の恒例行事となっている「托鉢寒行」で集まったもので、地球救援事務局の様々な救援活動に役立てられる。

◎比叡山高校の宗内生が托鉢浄財を寄託

平成二十八年一月十三日、比叡山高



校の宗内生三名（細野順優君二年生、高倉聖道君二年生、加藤優也君二年生）と宗内生が寮生活を送る山家寮の長山弘範寮長が来庁し、平成二十七年十二月六日に行われた「寒行托鉢」で集まった浄財十二万四千百円を地球救援募金として、総本部に寄託した。

この托鉢は、宗内生が実践仏教の一環として、大津市仰木地区において毎年行っているもので、今年は宗内生七名が参加した。

今回の托鉢は、大変暖かく、天候に

も恵まれ行えたとのことで、毎年、托鉢に来るのを待っていて下さるお宅もあり、これからも続けていくとのこと。寄託式では、細野君から横山総本部長へ浄財が手渡されると、横山総本部長から「ありがとうございます。皆さんの真心をしっかりと役立たせてもらいます。」と感謝の言葉が述べられた。

◎ 叡山学院が托鉢浄財を寄託

平成二十八年一月二十七日、叡山学院生三名（田原大志さん総合学科三年、土田穂聖さん総合学科二年、眞木輝さん基礎学科特修）が来庁し、平成二十八年一月二十二日に行った托鉢で集まった浄財を一隅を照らす運動総本部に寄託した。

この托鉢は、叡山学院生で組織された「玉泉会（ぎよくせんかい）」主催の実践仏教の一環で「叡山学院寒行托鉢」として大津市園城寺町の園城寺（三井寺）門前から浜大津周辺にかけて行われており、二十年以上続けられて行

る。今年も、学生、職員合わせて三十一名が街頭托鉢と戸別托鉢を行い、十万二百三十五円の浄財が寄せられた。

これらの浄財は、東日本大震災復興



支援金として横山照泰一隅を照らす運動総本部長に寄託された。横山総本部長からは「震災復興支援として大切に活用させていただきます」と述べられた。

○ 「一隅を照らす運動」理事会を開催

平成二十八年二月一日、天台宗務庁において平成二十七年年度第二回「一隅を照らす運動」理事会が開催され、平成二十八年度一隅を照らす運動の事業計画、各会計の予算等が審議・承認さ



れた。
 今回の理事会では、任期満了等による役員改選があり顧問、理事などの新任、再任が承認され、会長であられた森川宏映探題大僧正が、天台座主にご上任になられたので、大樹孝啓探題大僧正（兵庫教区圓教寺住職）が、全会一致で推薦され、会長にご就任いただくことになった。
 また、テレビでも活躍されている天台宗僧侶、露の団姫師が、天台宗や一隅を照らす運動について精力的に広報活動をしていることが認められ、「一隅を照らす運動」広報大使として委嘱された。

教育里親募集

一隅を照らす運動総本部では、学校に行きたくても行けない海外の子どもたちに就学費用を援助するため、「教育里親支援」を行っております。

この制度は子どもたちを預かる従来の里親とは異なり、皆様からの支援金を総本部が取りまとめ、現地の施設や団体を通じて子どもたちに届ける「教育費の支援事業」です。

〈支援（育英金）の種別〉

ご支援は「個人」のほか「団体」でも受け付けております。また、年額3万円（1口）を5年間継続して支援していただくことが原則ですが、一時的な支援も受け付けておりますので、積極的なご支援をお願いいたします。

A：継続支援…年額3万円（1口）を5年間

B：一括支援…5年分を一括で15万円の支援

C：一時支援…3千円以上

〈現在の支援先〉

インド：パンニャ・メッタ子供の家

タイ：プラティープ財団

〈お申し込み・お問い合わせ〉

まずは、一隅を照らす運動総本部へお問い合わせ下さい。折り返し教育里親制度申込書を送付させていただきます。

ミャンマー教育支援視察に

同行して

一隅を照らす運動
企画運営委員長 見上 知正

○現地状況

この度、平成二十七年十一月十九日～二十五日に渡り「一隅照らす運動」総本部の皆様と、およそ二十年間、学校建設等のミャンマーの教育環境支援に尽力されている宮下亮善師（九州東教区大雄山南泉院住職）の支援現場の視察に同行させていただいた。

成田より空路、ミャンマー最大の都市ヤンゴン市内に降り立つと、先ず目立つのは、街中に日本車が溢れていることである。そして、よく見ると、なんと日本企業等の名前がそのまま残され走り廻っている。中古車であろう。後で話を聞くと、日本の会社名等を残

したまま走行することが、ミャンマー国民には自慢であり、日本で使用された日本車を乗ることがステータスだという。日本人としては何だか嬉しいが、はたして日本は憧れの国であろうか。さて、ヤンゴン市内はちょうど世界的に注目を浴びた総選挙も終わり平常さを取り戻していた。その選挙結果の見方には、日本国内の報道での印象とは若干の差異があるようであるが、まだまだ生活環境の整備が求められる中で、今後は海外資本によってインフラ整備が進むであろう。また、それらの進捗状況と併せて教育や社会福祉支援はどのような関わりをもっていくのか見守る必要がある、国民は、期待と不安が入り混じっているようである。

それにしても、発展途上国には同様の国内状況がみられるのだが、いわば、都市部と地方、山村地域での生活環境に雲泥の差がある。ミャンマーもまた例外ではない。宮下師が支援を行っている地方の山村に足を踏み入れると、昔の日本を彷彿させる。移動の車中に蚊が飛び交ったり、道中には「車体が重く地面にあたるので下車して少し歩いて下さい」と運転手から指示をうける場面もあり、もちろん未舗装の相当

ひどい凸凹道であり、右側通行であるようだが、むしろ中央線もなくガタガタ道を要は衝突回避だけに専念した通行でもある。周囲は田畑と言うより草原原野ともいべき大地の中で、牛をひいて地を耕し、時折、山羊の集団にも遭遇する。ミルクを絞っているのだと言う。電気、水は整っているようであるが、水洗状況も悪く停電等もありまだまだ不十分のようである。そんな中、現地の人々は精一杯の生活をしている。都市部の情報も教育もあまり届かないであろう山村地域の子どもたちの為に学校建設等に尽力されている宮下師の多大な貢献には敬意を表するものであり、学ばなければならぬ面が多々あることを痛感させられる。

○一隅を照らす思いやり

訪問した時は、おりしも僧侶達の三カ月に及ぶ雨期の安居が終わり、ミャンマー国内は十一月の満月にあわせ国民総出で寺院僧侶に寄付（喜捨の心）する期間にあたり、街はお祭り騒ぎで賑やかであった。仏教精神がここまで浸透している姿にはうらやましくもあり感銘を覚えるものであった。

同行して頂いた現地の先生が、道中

に横山本部長と私に「ミャンマー人は、自分が幸福に成るためには、まず、仏様に守られている事。そして、他人を思いやる事。人様に親切にする事。お互いに助け合う事、という気持ちを持つ事が大切なことだと、みんな知っています。」と示唆してくれた。その信仰善心な行動が寺院僧侶への喜捨という実践となって表れているのであろう。まさに普段から私達が一隅運動の精神として口にしてしていることを、そのまま実践しているかのようなのである。

また、現地バオ族のリーダー、カリスマ的存在である、ウ・アウン・カム・テイ氏宅にも訪問させていただいたが、彼は、今は還俗されているが元僧侶である。そのあたりの事情を横山本部長が質問すると、戦後の混乱のなか共產主義の台頭もあり民族自治、宗教、文化も崩壊寸前となり、部族内の人々の生活も厳しい状況を強いられそうな危機が迫ったため、部族内から指導者に強い懇願を受け、自分よりも部族のためにと還俗され、厳戒体制のなか自ら軍の門を叩き直談判にも臨まれたという。お大師様の「忘己利他」の精神そのものであり感銘を受けた。

その感銘を胸に後日、ヤンゴンに戻

り、ミャンマー仏教界のお座主とも思われる最高指導者ウ・クマラ師に面会させて頂いた。ご尊父がビルマから生環されている横山本部長が「戦時中には大変なご迷惑おかけしながら今では戦没者の慰霊や日本人墓地等いろいろと配慮していただき」と、御礼を申し上げると、ウ・クマラ師は、「ミャンマー国民は我慢することを知っていますから」と、いとも簡単に答えられた。そのお答えに私は胸を叩きのめされる感嘆を覚え心を洗われた思いであった。

ミャンマーの人々の根底に流れる精神、気持ちは一隅運動と合致するものがあり、改めて再確認させられ勉強にもなる。

○教育現場

前日にヤンゴン入りした私達は空路へーホーに向かい、バスで約一時間余りかけて最初の訪問地、ニュアンシュエ教育事務所と農業研修所を訪ねた。教育事務所では、宮下師が二十年に及ぶ奨学金支援を行っていると、元奨学生や教師、商店主などが支援をし、現在は、自分たちで奨学金制度を運営するまでに至っている。また農業



歓迎の為に、ニュアンシュエ教育事務所にて集まってくれた奨学生たち

研修所は、寄宿舎により年間通して農作物の栽培等を行い農業技術を身につける為の研修所である。今後の見通しは、という私の問いには明確な回答は無かったが、敷地は整備されているとは言えず以前支援していた団体が退き、資金面での不安があるようで今後の課題であろう。しかし、奨学金制度や農業支援にしても宮下師などの支援団体の精神である、一方的な支援ではなく、支援先の自立、循環を促す支援

が実を結んでいるようである。

さて、宮下師中心の支援によって新しく建設された新保育園では村民一同の大盤振る舞いの大歓迎を受ける。この日の為に指導を受けたであろう園児による♪ABCDEFGHIJの歌声は朗らかに心休まる時であった。この支援が、いかにも現地に歓迎されていて、それに応えようとする村民の誠意の一端を見た思いがする。また、宮下師による「鯉のぼり」と総本部からも文具、お菓子等の贈呈もあったが、村人達の不思議そうな表情の中にも喜びが満ち溢れ、単なる支援だけではなく、交流



農業研修所にて地元担当者と懇談する

の大切さも感じさせられる場面であった。

また、以前支援し建設した中学校では、地元僧侶らの要請があり、宮下師の関係者よりパソコンの寄贈があった。むろんネット回線が通じている訳ではないが、子どもたちは興味深そうにマウスを操作しながら満悦そうな顔がなんとも思い深い。必ずや子どもたちの将来に役立つことであろう。本当に現地の子どもたちは、純粹に目が輝き、あらゆる物事に興味を示すのである。



村人総出の歓迎を受ける

我々が配付した「しようぐうさんシール」を、私が顔に指をあてると、さまざまシールを自分の顔に貼り付けて喜びまわり、同行した源田委員が愛用のタブレットで早速に似顔絵を描くと、子どもたちは驚きの顔をしながら見入っていた。教育環境はまだまだ不十分ではあるが、機会を与えられた子どもたちは活き活きとし、その姿をみると、支援の必要性、重要性を再確認するものであった。

ミャンマーを後にし、帰路タイ・バンコクのプラティープ財団を訪問した。子どもたちの歌と踊りで歓迎を受けたが、子どもたちは可愛くハツラツとして目は輝き、むしろ私の方が感銘を覚えさせられた。スラム街で生活を余儀なくされている中で、その機会を与える事がこんなにも子どもを明るくさせるのかと、実際の現場を見るとつくづく考えさせられる。

また、訪問した施設、学校において、そこから育った、いわば卒業生も医者、教員、保育士等様々であるが立派な社会人として顔出ししてくれていた。その施設でも指導的立場から頑張っているという。支援が実を結んだ結果であり素晴らしいことである。そこには進学

に必要な奨学金の将来的な確保に一抹の不安もあるようであるが、「社会に役立つ人材作り」というお大師様のお言葉、一隅を照らす運動の根幹でもある理念でもあり今後の支援運動推進の視点に参考になるものである。

○視察を終えて

支援現場を後にして考えさせられる事があった。それは、通常ではあるが、私達が訪問すると、なぜ現地の人々はこんなにまで喜びを表現して特別な歓



新築の園舎前にて

待をするのであろうかと言う事である。どうみてもお金の催促だけではないように見える。答えは宮下師関係者から聞いた支援方針にあるように思われた。その方針は、支援をする現地の人たちが自助努力しないことには支援をしないということである。新保育園を例にとっても、全額支援をするのではなく、一部を現地の村に負担をさせるのである。そうすると資金を出す者や、資材を提供する者、労働力として参加する者など村全体で力を合わせ努力し、建物を完成させるのである。その達成感に自分たちも誇りを持ち、支援者に感謝の念が湧き上がり、体全体で喜びを表すのであろう。この支援先の「自助努力」という見方は今後の支援体制構築においても重要な見地になるかと思われる。

プラティープ財団に訪問の折には、数年前から滞在し尽力しておられる硯山昌寛師（南総教区長福寺住職）に生気ながらもその考えを申し述べ、現状と今後の展望についても個人的にお話させて頂いた。単なる器、資金だけの提供だけではなく、自助努力への力添え、現地に必要とされる援助の見極め、また、グローバル的な見地から、

各々の施設、学校等での日本人と現地の人々との交流による人材育成等、継続的な支援体制が一隅を照らす運動にとって重要になるかと思われる。その体制構築の為にも、ことアジア圏においては、宗、総本部のもとに、現地に支部事務所的な拠点を設立することが必要ではないだろうか。現地の状況は現地がしっかり把握出来るのであるから。そんな個人的な夢を描きながらの帰国であった。

○戦没者慰霊

今回のミャンマー訪問には、戦後七十年を迎え戦没者慰霊の目的もある。過去大戦の激戦地でもあるミャンマー、横山本部長のご尊父は、あのインパール作戦からの生還であったとお聞きしたが、私どもの檀家にも同様に生還された方がおられる。また、同行した源田委員の祖父は当地で犠牲になったと聞いている。

いざその現場に赴いてみると、雄大な原野が広がり今は静寂な雰囲気をもし出しているが、銃声に追われながらこんな厳しい原野を駆け巡られたかと想像すると、お国の為とは言え「遠く日本をはなれ、よくこんなところま

で：「こんなところで」と、胸にこみあげるものがあり思わず両手を合わせたい気持ちになる。

激戦の中、現地の人々にはいろいろな複雑な思いがあったことであろうが、日本兵の慰霊碑が建立されている寺院、形骸化した戦車、日本兵の遺品等をもつて保管されている寺院もある。そして、寺院僧侶によって法要が勤修されているという。なんとも感謝の一言である。日本人墓地において、千葉から来たという夫婦は「この地で戦没者になった祖父に一度は現地で参りを



メッティーラの慰霊碑にて

しないと」と言われた。改めて戦争の悲惨さと、遺族の思いはまだまだ続くのだというを感じた。各場所において、私達も本部長を導師に慰霊法要を勤めさせて頂いた。

昨年、大法会でも延暦寺において戦後七十周年慰霊法要を奉修されたが、改めてその意義を確認し宗としての今後のあり方の大切さも痛感する。

○寺院・僧侶

ミャンマー寺院やパゴダは、金箔をふんだんに使い装飾された見事な建造物も多い。鉦産物の豊かなお国柄の影響もありそうである。寺院参拝は裸足である。毎日法要、法話があり、多くの参拝者が詣でている。全ての参詣者が三礼であろうか、最初に必ず三回寺院、僧侶に向かい頭を下げる。この強い信仰篤

心には驚かされる。仏教の教えが国をあげて浸透している証拠でもある。

僧侶に対する国民の信望も厚いものを感じる。空港では、搭乗は最初にゲートでも無条件通過のように特別扱だ。歩いても僧侶が先頭だという。ヤンゴン、タウンジーで早朝托鉢に歩く僧侶を目撃する。人々が駆けつけ施す姿は感心するものであった。



シェダゴンパゴダ参拝